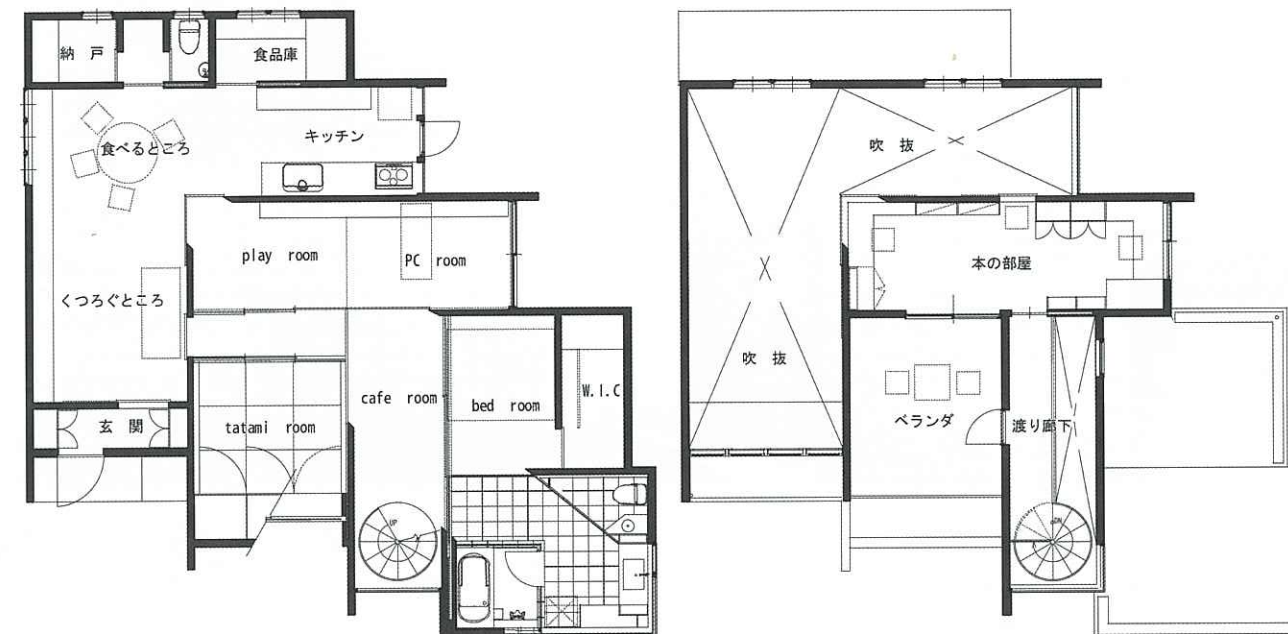


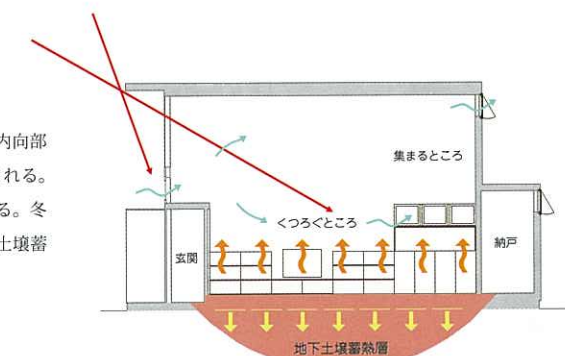
引戸のマジックによる可変空間



1F 平面図

2F 平面図

平面計画を矩形に近づけることで、外壁面積を減らし内向部がまとまり、温室環境など冷暖房効率の向上が見込まれる。夏は南の各室から風が入り、吹き抜けを通り北へ抜ける。冬は大きな開口から十分な光が暖め深夜電力を利用する土壌蓄熱床暖房が室内を快適にする。



Concept 設計趣旨

敷地は、高崎市内の住宅密集地。決して狭くはないが台形の変形地である上、近隣住戸が迫っていました。近隣家の共存を考慮しながら、室内空間を考えました。また世帯数(将来的に子供も考慮し)3台の駐車スペースも希望されました。高さを低く抑えながら、大きな空とつながった大きな開口を持つ、大きなワンルームのような部屋をつくることに。コストデザインを考え構造を木造としました。通常、木造は4面を壁で囲い強度を保っている為、一定方向の壁に大きな開口を取りにくくなってしまふ…。そこで構造家とL型の木造壁を連立することでお互いを支えあう構造を考えました。結果、南と東面全てに開口となる構造が実現し、またその壁の中央に大小異なる開口を開け重ねることで、連立する壁が消えたり、現れたりする現象が起きます。これにより一体のワンルームに見えたり、壁で遠ざかったプライバシーの守られた空間にも変わります。かつて、群馬の農家の家は襖で状況に合わせて自由に部屋の大きさを変えていました。この家も可動間仕切りで仕切れることで、大きさを自在に変化させる家となりました。

01.

Gunma Housing Award

